

「モンバルクJMGの交流」

本校は、平成6年3月にオーストラリアのメルボルン近郊にあるモンバルクカレッジという高校と姉妹校提携を結んで以降、毎年、9月にモンバルクの学生と教員が2週間程度本校を訪問し、3月にはこちらから現地を訪れてホームステイをしながら授業に参加する相互交流を続けてきた。しかしながら、2020年3月以降、新型コロナウイルスの影響により、予定されていた相互訪問はすべて中止となっている。直接会ってお互いふれあう交流が叶わないもどかしさのなか、一昨年度よりWeb交流を開始し、今年度もオンラインでの交流を計画している。

また、本校ではオーストラリア以外の国の高校生との交流等への参加も奨励しており、今年度は三重県事業の一環として11月と12月にフィリピンの高校生とのオンライン交流を実施した。国際科の1・2年生が参加し、互いの国の文化や学校について紹介し合い、SDGsをテーマにディスカッションに取り組んだ。アカデミックな話題について自分の意見を英語で述べることの難しさや、社会問題に関する知識を増やす必要性を感じながらも、英語の勉強や異文化交流・理解に向けた意欲を高めるよい機会となった。

フィリピンの高校生との オンライン交流に参加した生徒の感想

フィリピンのリアルな暮らしの様子をみることで出て良かった。またそれについて知れただけでなくエコやSDGsの観点からディスカッションを行えた為、とても良い経験になった。フィリピンの人達は日本人よりも様々な環境への取り組みに対して積極的に参加していて本当に凄いなと思ったと同時に私も見習いたいと思った。具体的な環境への取り組みについては、卵の殻を捨てずに肥料にしたりお風呂の残ったお湯を洗濯に利用していたりすることがディスカッションの中で分かった。また自分の英語力の未熟さを実感する機会でもあった。自分の言いたいこと考えすぐに英語に変換することの難しさや積極性の大切さを学んだ。(2年生)

自分が伝えたいことを英語に変換して伝えるのと、フィリピンの高校生やファシリテーターさんの言っていることを理解するのが難しかったです。英語をもっと話せるように、理解できるようにになりたいと思うきっかけになりました。また、SDGsに関しての知識もまだまだだだと思えました。これからもっと知識を増やしていきたいです。(2年生)

日本は水を飲んだり、植物に水をやりたりするとき、水が簡単に蛇口からるので、水を節約するためにと考えたときに、日本人の学生は案がなかった。だけどフィリピンの方は雨水を溜めたりと考えができていたので、それだけ日本は恵まれていることが当たり前になってきているんだなと感じた。私たちが車を購入するとき、電気自動車するなど、将来環境のことを考えて行動できるような知識を得るためにこのような交流や学習をすることは重要だと思った。(2年生)

最初は自分の英語が伝わるか少し不安だったけど、何か言ったら何かしらは伝わるだろうと思って積極的に発言したら思っていたよりも自分の言いたいことが伝わっていてよかった。ファシリテーターもたくさん相槌をうってくれて、単語が思い浮かばないところは助けてくれてディスカッションをするにあたってよくできたとと思う。フィリピン独特の訛りもあっていつもと違う英語が体験出来て楽しかったし、違う学校、違う国籍の方と英語を通して交流できる自分の英語力にも感動した。ただ、まだまだ自分の思っていることを的確に伝えられるような英語力私には無いので、もっと英語を勉強していこうと思った。(1年生)

相手の英語を聞き取れても、それに対する返答がすぐに出てこないことが多く自分の語彙の無さを感じました。自分の知っている範囲の文法を使って伝えたがうまく伝えられない事が多く、もっと勉強する必要があると思います。最初のツアーではフィリピンの生活の仕方に関する事を知り、日本との生活の違いと照らし合わせて考える事ができました。(1年生)